

1. 大磯町学校教育施設整備基本構想策定の目的

「大磯町学校教育施設整備基本構想(以下、「基本構想」という。)」は、「大磯ならではの教育とは何か」、中学校給食の在り方等も含め、求められる「学校教育施設の在り方」を検討し、大磯町立の小中学校4校の整備内容及び時期を具体的に決定していくことを目的に策定しました。

2. 学校教育施設の目指すべき姿

未来志向で実空間の価値を捉え、学校教育施設全体を学びの場として創造することを目的とし、右に示す5つの視点から学校教育施設の目指すべき姿を定め、大磯町教育大綱の基本理念である「子育て・教育でみんながわくわくするまち おおいそ」につなげます。



図 学校教育施設の目指すべき姿

3. 学校教育施設における課題と対応の在り方

学校教育施設整備の現状やまちが目指す方向性を踏まえ、6つの視点から課題と対応の在り方を示します。

安全・安心、老朽化への対応

安全性の確保や防災機能の向上を図ります

望ましい規模・配置

学習環境等を踏まえた望ましい規模・配置を実施します

教育環境の充実

子どもや先生がわくわくする空間を創出します

社会的要請への対応

地域の人がわくわくする空間を創出します

健全な財政の維持

全庁横断的な検討体制を構築していきます

持続可能な運営・維持管理

民間活力の導入による運営・維持管理体制を構築していきます

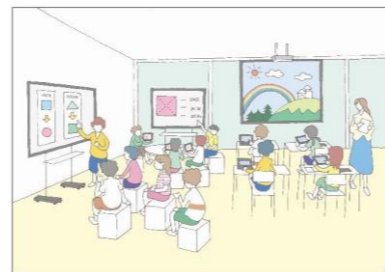
将来の整備イメージ



多様な活動ができる空調設備のある体育館



学習活動に柔軟に対応できる多目的な空間



多様な学習活動が展開できる空間



安全・安心な教育環境、地域コミュニティの拠点



読書・学習・情報のセンターとなる図書館



太陽光発電設備を導入し、環境教育に活用

出典：文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」(令和4年3月)

4. 学校教育施設の望ましい規模・配置の考え方

(1) 望ましい学級数の考え方

小中学校の学級数は、学校教育法施行規則により標準の学級数が定められていますが、今後小学校において35人以下学級による編成を基本としていくこと、中長期的には町内の年少人口が減少していく見通しであることなどを考慮し、本町における学校の望ましい規模の範囲は以下のとおりとします。

小学校	18～24 学級程度 (1 学年当たり 3～4 学級程度)
中学校	9～12 学級程度 (1 学年当たり 3～4 学級程度)

(2) 望ましい通学距離・時間の範囲の考え方

本町では現在の大磯と国府の学区を維持していくことを基本に、現在の小中学校の配置を適当と考え、維持していくこととします。

5. 学校教育施設の整備の方向性

「大磯町教育施設等長寿命化計画」(令和3年6月)に基づき、計画的に学校教育施設の整備に取り組みます。

目標使用年数	• 計画的な保全整備により、物理的耐用年数にできる限り近づけることを目指し、躯体が健全な施設(長寿命化施設)は原則として80年を目安として使用します。
改修・改築周期	• 長寿命化施設は、建築年度を基準に大規模修繕や長寿命化改修を20年周期で実施することで、目標使用年数の80年まで確保します。
優先順位	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 建物の状態や安全性、学校教育施設が果たしている役割など、対策に当たって考慮すべき視点を踏まえ、以下に示す優先順位の方向性を定めています。</li> <li>優先順位 1 構造躯体の健全性を確保</li> <li>優先順位 2 長寿命化を図る上で重要な部位の予防的な改修工事</li> <li>優先順位 3 利用者へ与える影響が大きい部位の改修工事</li> <li>優先順位 4 非常時における役割</li> <li>優先順位 5 「存続」する施設</li> </ul>

6. 学校教育施設整備の進め方

大磯町立の小中学校4校の整備内容及び時期を具体的に整理したロードマップを示します。

計画期間は、前期を本基本構想策定後の2023年度から2032年度までの10年間、後期を2033年度から2042年度までの10年間とします。

表 個別施設の整備に関するロードマップ

	前期 (2023～2032)	後期 (2033～2042)	備考
大磯中学校	建替・新築		1号館は、構造躯体の健全性の観点から長寿命化改修に適さない施設として改築(建替)を行う。その他の施設についても、バリアフリー設備や給食施設の新設などの社会的要請に対応するため、一体的な整備を行う。
国府中学校	長寿命化改修・新築		生徒数をそのまま維持し、個別最適な教育を図るため、既存施設の改修を行う。給食施設の新設などの社会的要請に対応していく。
国府小学校		長寿命化改修	児童数をそのまま維持し、個別最適な教育を図るため、既存施設の改修を行う。
大磯小学校		長寿命化改修	児童数をそのまま維持し、個別最適な教育を図るため、既存施設の改修を行う。